

やまと

広報

1 月号
2013 No.225

特集
新春行事 2013

新年のごあいさつ

もくじ

02-03 新年のごあいさつ

04-07 特集：新春行事 2013

08-11 村の話題：地域支えあいシンポジウム、ほか

12-14 お知らせ：地域リハビリ相談窓口開設、ほか

15-16 連載：島の宝、ほか

スモモとヒカンザクラの開花（大和浜・中原農園）

謹賀新年

自然と共生し、安全で住みよい村づくりを目指して。



みなさまのご健康とご多幸を
心からお祈り申し上げます。

大和村長 伊集院 幼

村民の皆様、新年あけましておめでとうございます。

村民の皆様には、輝かしい平成25年の新春をご家族おそろいでお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

近年は、自然災害が全国的に多発してきています。奄美におきましても100年に一度と言われた奄美豪雨の後、2度も豪雨災害に見舞われました。そして昨年は、連続して大型台風が襲来し、村内でも多くの方が被害を受けました。被災された皆様方へ心からお見舞いを申し上げます。

平成25年は、事故・災害等の無い平和で明るい年でありますよう、心から願ってやみません。

私は、村政を進める上で大事なことは、「行政は村民の立場に立つて村興しに取り組まなければならない」との基本理念の下に、村政運営を進めて参りましたが、本年も引き続き原点に戻り、村政に取り組んで参りたいと考えております。

それでは、年頭に当たり、村政の主眼基本方針について申しあげます。
まず1点目は、「行財政改革の推進による健全財政の確立」であります。

村興しの原点は、村民であります。事業の効果や必要性など十分な検討を行い、最小の経費で最大の効果を目指

し、適正な予算執行で健全財政の確立に努めて参ります。また、今一度、職員意識改革を図り、村民サービスの向上に努めて参りたいと思っております。

2点目は「農林水産業の振興による特産品の開発及び販路の拡大」であります。

これからの大和村の産業は、農林水産業であります。これまで掲げてあります振興策の一つに、村の特産品であるスモモやタンカンと併せてマンゴーの生産も増えつつある中で、村外への販路の拡大が挙げられます。

これからも、村のトップセールスマンとして、村外へ特産品のPR活動を積極的に進めて参りたいと考えております。特に、神奈川県大和市や東京都板橋区での物産展が確立されるように努めて参ります。

また、加工品については、大和まほろば館を拠点として、開発・商品化を進めることで、村で生産された作物の付加価値を付けることにより、農家の皆さんの生産意欲向上に繋がっていくように取り組んでいきたいと思っております。

さらに、生産者である農家の皆さんの所得向上に少しでも貢献するため、村が進めております農作物の名瀬中央青果市場への集荷・出荷体制を今年度

も引き続き実施しますので、生産者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

3点目は、「定住促進による村の活性化」であります。各種の定住促進施策を継続して実施しながら、雇用創出にも繋げて行きたいと思っております。さらに、公営住宅の整備を進め、喫緊の課題である人口減少対策へも取り組んでいきたいと考えております。

4点目は、「子育て支援及び教育環境の充実」であります。子どもを生み育てやすい社会環境の整備を充実させ、子育て支援を強化するとともに、教育環境の整備により、人間性豊かな人づくりに努めます。

5点目は、「道路交通網、情報通信網、生活環境の整備促進」であります。生活の基盤である道路交通網や情報通信体系、集落内の生活環境の整備等に引き続き取り組めます。

6点目は、「防災力の強化による安心・安全な村づくり」であります。自然災害が多発している現在、災害に強い村づくりの推進は非常に大切であります。定期的な防災訓練の実施や、自主防災組織の強化、集落避難所の機能向上、防災センターの建設に取り組んで参

ます。

7点目は、「高齢者福祉の充実」であります。本村の高齢化率、36.6%は、奄美群島内では最高の数値となっております。今後も引き続き関係機関と連携を図りながら、各種施策の推進に取り組めます。

以上、合計7つの基本方針を掲げ村政を推進して参りますが、今後とも、村民と共に明るく心豊かな「まほろば大和」の創造に取り組んで参りたいと思っておりますので、ご指導・ご協力をよろしくお願いいたします。

先人が築き上げた功績を守りながら、「豊かな自然や伝統文化」を継承し、後世に残していくための施策を講じて参りますと共に、大和村の基本理念である「自然と共生し、生き生き、安心、安全な住みよい村づくり」を実現するために努力して参ります。

以上のことなどに、全職員一丸となつて、全力を尽くして参る所存でありますので、村民の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新春にあたり、村民の皆様方の限りないご多幸と、益々のご健勝をお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。

新春行事 2013

Special Feature



二十歳の記念日・成人式



大和村消防団出初め式

火災・災害のない一年に

1月4日、大和中グラウンドにて村内の5分団、52名の消防団員が参加し、消防出初め式が開催されました。

消防出初め式は消防団員の士気高揚を図るとともに、1年間の無火災・無災害を祈念して毎年1月4日に開催しています。

式は団員の行進に始まり、通常点検、村長による観閲式(写真)、小型ポンプによる一斉放水を披露。団員の機敏な動きでホースが延長され、グラウンドに5本の放水アーチがかかると観客から大きな歓声が上がりました。

昨年は5年ぶりに大棚集落で民家火災が発生しましたが、消防団員や地域住民がいち早く現場に駆けつけ、迅速な消火活動を展開。住宅密集地にもかかわらず延焼を防ぎ最小限の被害に食い止めました。

これからも地域における防災力を高め、火災や災害から村民の生命と財産を守ることを期待します。

なお、表彰を受けた方々は下記のとおりです。



日本消防協会表彰 30年勤続章

伊村光志(大金久・56歳)

鹿児島県消防協会表彰10年勤続章

森田幸一郎(大棚・50歳)

重野浩也(今里・47歳)

県消防協会支部長表彰 功績章

重野浩也(今里・47歳)

県消防協会支部長表彰15年勤続章

元山満雄(大金久・49歳)

今井隆(大棚・42歳)

叙勲 瑞宝双光章

直島榮男(津名久・76歳)

「将来は村の発展に貢献したい」

1月4日、大和村中央公民館にて村内25名の成人者(対象38名)を招き、平成25年二十歳の記念日・成人式が開催されました。

式典では泉有智教育長が「裏山に登ることと高い山に登ることは覚悟が異なる」と、志と覚悟を登山に例えて激励。伊集院大和村長と梅畑茂和大和村議会副議長に続き南雲聡大和村連合青年団長が祝辞を述べました。南雲団長は、青年団の主催するひらとみ祭など、若者が団結して目的を達成する充実感やイベントによる地域おこしの役割を紹介。「青年団活動を通じともに地域に貢献しましょう」と語りました。

新成人25名全員が自己紹介と抱負を発表。「シマを離れて初めて故郷の素晴らしさと両親や地域の方々の優しさを認識しました」、「将来は医師になって大和村の医療に貢献したい」、「将来は村に戻りふるさと大和村に貢献したい」などと抱負を述べました。

式典中は緊張からか顔をこわばらせていた新成人たちも終了後はリラックスした様子で友人や家族と記念撮影。華やかな振り袖や大島紬姿、若者たちの笑顔で会場は華やかな雰囲気になりました。なお、出席者名は次のとおりです(前中後列・右から)。

大和校区(対象19名)

- 前列③ 郁島 奏海
- 前列⑦ 森 孝雄
- 前列⑧ 畑島 航
- 前列⑨ 市田 泰海
- 中列② 梅畑 夏香
- 中列③ 神田 由美
- 中列④ 武原みのり
- 中列⑤ 納 亜実
- 中列⑦ 奥田 華子
- 中列⑧ 愛川みさと
- 後列① 畑島 高信
- 後列③ 谷村 翔平
- 後列④ 平 大成
- 後列⑤ 壽福 衛
- 後列⑥ 盛山 敦史
- 後列⑦ 吉原 和喜
- 後列⑧ 福山 隆光
- 後列⑨ 森 正慈

大棚校区(対象6名)

- 中列⑥ 前田 里穂
- 中列⑨ 今井明利香

戸円校区(対象5名)

- 中列⑩ 川口 納

名音校区(対象5名)

- 前列① 川畑 絵美
- 前列② 民 彩夏
- 中列① 宮島 佳奈
- 後列② 重田 一平

今里校区(対象3名)

出席者なし

新春行事 2013

Special Feature



ヒキヤゲ



ナンカンジョーセ



気持ち新たに新年の誓い

心地よい刺激の中で初泳ぎ

1月2日は国直海岸で大和村水泳連盟（伊集院幼会長）主催の新春初泳ぎが行われ、村内外から50名のスイマーのみなさんが参加しました。

開会式では、伊集院会長が新年のあいさつで「冷たい海に入ることです身を清め、一年を健康ですごせるよう元気に泳ぎましょう」と寒さに凍える参加者を激励。

例年北風が吹き、時化の中行われる同イベントですが今年は無風、快晴の好条件。参加者はランニングや準備運動で汗をかいた後、一斉に海へと突入！暖かい陸上と異なり海水は冷たいようで氣勢を失しながらの入水でした。

参加者は沖合まで泳ぎ、全員が輪になって恒例の三本締めを。一年間の無病息災を祈願しました。

最後に全員が集合し恒例の写真撮影。寒さをこらえて笑顔でポーズを決めて参加者たちも終了の合図とともに一目散に陸へ上がって行きました。海水の適度な刺激で身を清めた参加者たちは気持ち新たに新年のスタートを切りました。

真剣な表情で書き初め教室

1月7日、大和村中央公民館にて新春の書き初め教室が開催され、村内の小学生18人が参加しました。

書き初め教室は大和村教育委員会が主催する「大和村冬休み学習教室」の一環で、村内小中学校の先生達がボランティアで講師を務めました。

子供達は新春にふさわしい言葉や目標や抱負など学年に応じた課題に挑戦。講師の先生方から筆の持ち方や筆の運び方、字のバランスなど指導を受けました。

課題の言葉を書き上げた子供達は、「漢字は難しかったけど集中して書けた」、「止め、跳ね、バランスが難しかった」、「最後は自分なりに納得のいく字が書けて良かった」などと感想を述べました。

子供達は姿勢をただし、集中した表情で筆を走らせ新年の決意を新たにしました。記念撮影では、書き上げた作品を手に誇らしげな笑顔を見せてくれました。みなさんも、書き初めで一年の誓いを形にしてみたいかが？きつと晴れやかな気持ちになるはずですよ。

昔ながらの正月行事

ナンカンジョーセで健やかに

1月7日はナンカンゼツク（七日の節句）。数え年7才となる子供は、親戚やご近所など7軒のお宅からナンカンジョーセ（七日の雑炊）を貰って廻ります。

ナンカンジョーセ食べることに厄払いの意味があり、子どもが健やかに育つようにという願いが込められています。

大和村で作られるナンカンジョーセは、春の七草にはあまりこだわらず、シユツケウワ（塩豚）やドーコネ（大根）、ウム（山芋）、ナバ（椎茸）、イビ（車海老）など正月で使用した具菜を炊き込んだものが一般的。最近ではナンカンジョーセにお祝いを添えて渡します。

画像は、祖母の中マサさん（国直）宅でナンカンジョーセをいただく大野日菜子（湯渡釜）さんと母の正美さん。

日菜子さんは大好きなおばあちゃんから熱烈的歓迎を受け、とても嬉しそうに「ありがたさまりよーた」とお礼を言っていました。ご両親だけでなく祖母や親戚、地域住民全員が子供の健全な成長を願っています。

ヨーカトハツカはヒキヤゲ

奄美大島ではヨーカトハツカ（18日から20日にかけて）にヒキヤゲを作って食べます。ヒキヤゲはハヌス（サツマイモ）を蒸してつぶし、餅米の粉と練り合わせて作ります。以前は水餅にしておいたトウク餅（床餅）を使うこともありました。

1月18日、国直菜の会（農原政代会長）では地域支え合い活動の一環として高齢者のみなさんとヒキヤゲを作りました。この日作ったヒキヤゲの材料は、サツマイモ10キロと米粉2キロ、砂糖少々。高齢者のみなさんは木ベラやすりこぎを使ってサツマイモをすり潰し手際よく練り込みます。できあがったヒキヤゲを一口いただくサツマイモの甘味と素朴な風味が口いっぱい広がりました。

調理後の食事会では、会員から「定期的に高齢者のみなさんから郷土料理を学びたい」という意見があり、さっそく計画を立てていきました。四季や年中行事と深く関わり伝えられてきた郷土食。親から子、子から孫へ「島の宝」が受け継がれていくことを願います。

達人の経験に学び、30年後の日本のモデルに。

豊重哲郎先生基調講演 「やねだんにおける地域支えあい」 & 大和村地域支えあいシンポジウム

12月8日、大和村体育館にて大和村地域支えあいシンポジウム（主催大和村）が開催され、村内外から400名の方々がご来場下さいました。同シンポジウムは「やねだんにおける地域支えあい」と題し豊重哲郎先生による基調講演が行われた他、「ユイの心をカタチに」のテーマで村内4集落の地域づくり団体の代表によるシンポジウムが行われました。



行政に頼らない村づくり

柳谷集落公民館長 豊重哲郎先生

やねだんにおける地域支えあい

基調講演を行った豊重哲郎先生は鹿屋市柳谷集落、通称「やねだん」の公民館長（区長）。「行政にたよらない地域おこし」をモットーに様々な地域づくりに取り組んでこられ、地域興しの達人として知られています。

豊重先生と柳谷集落の活動は、サツマイモの生産や土着菌を活用した農業の実践、子どものための寺小屋の運営、火災報知器の設置、緊急通報装置の設置、芋焼酎「やねだん」の販売、空き家を改修した芸術家の受入れ、柳谷未来館の建設、手打ちそば食堂の創業、故郷創世塾の開講など多岐に及びます。

柳谷集落には成功事例を学ぼうと、全国から年間4,000人を越える方が視察に訪れるとのこと。集落に対する経済効果も大きく、運営費の余剰金を



ボーナスとして全世帯に配布したほどだとか。
豊重先生は時には声を詰まらせ、時には目頭をうるませながら地域に対する熱い思い、理想のリーダー像、魅力ある商品開発などあらゆる角度から地域再生について語りました。
元々やねだんは、人口300人、高齢化率4割の過疎の村とのこと。大和村の各集落と同様な状況です。私たちもやねだんに学び、まずは出来ることから実践していきましょう。

シンポジウム「ユイの心をカタチに。」

やまと 国直茨の会・湯湾釜ハッピースマイル・大和村の会・名音テイダの会

取り組みの成果と見えてきた課題

シンポジウムは、平成24年度大和村地域支えあい事業に取り組む4団体から、国直茨の会・農原政代会長、湯湾釜ハッピースマイル・蔵正代表、大和村の会・川下八重子会長、名音テイダの会・納教芳会長の4名をパネラーにお招きし、名瀬保健所の小城京子氏をコーディネーターに。基調講演をいただいた豊重哲郎氏を助言者として開催しました。

シンポジウムは4名のパネラーが日頃の活動状況や団体を立ち上げた経緯について画像や映像を交え詳細に紹介。

国直茨の会は「地元特産品であるジマメ（落花生）の生産と今後の商品開発について」、湯湾釜ハッピースマイルは「高齢者の営農支援と販売について」、

大和村の会は「大和商店を活用した地域交流と惣菜販売について」、名音テイダの会では「喫茶『のん笑談所』を拠点とした地域見守り活動について」を発表。

各団体は、行政に頼ることなく、各地域の持つ特性を生かし着実に歩み始めている様子でした。しかし、活発に活動しているこれらの団体ですが、団体の交流の機会は少ないとのこと。今後は、情報の共有や商品の相互活用など交流を深めて行きたいとも意気込みを語りました。

また、豊重先生からは「各団体が取り扱う商品は安価な商品ばかりで消費者には喜ばれるかも知れませんが、村外から外貨を獲得するためにはより付加価値のある商品開発を行うべき」と

の助言がありました。

さらに豊重先生は「今日みなさんから村特産のスモモのお話が聞けなかったのは残念です。スモモは生食だけでなく規格外の商品を加工・製品化し、より付加価値のある商品を販売すべきです。また、最近需要の多い介護食として有望な食材だと思えます。今後スモモを活用した活動に期待したい」と核心を突くご助言もいただきました。

日ごろから積極的に地域おこしに取り組むこれらの団体ですが、全国的な先進事例といえる「やねだん」豊重先生の成功事例を目の当たりにし、また、村内で頑張る他の団体の現状を聞き意を新たにされた様子。これからの各集落における支えあい活動と地域おこし活動に期待が高まるシンポジウムでした。

カタチに

課技術補佐兼健



福元ドーコネ（大根）が大人気！

年末恒例ひらとみ朝市

ひらとみ朝市（同実行委員会主催）が12月28日、思勝港緑地広場で開催され、早朝から正月飾りや正月用の食材を求める人々にぎわいました。

同朝市は地産地消を進める農家グループによって20年程前に発足。当初はひらとみ神社前で不定期に開催していましたが、現在は思勝港内にて年一回、12月28日に開催される年末の恒例行事となっています。

しめ縄や門松といった正月飾りの他、大根やヤマイモ等の農産物、新鮮な魚介類が多数並び、特に勝三千也さん（53歳）が出品した福元名産「福元ドーコネ（大根）」は大人気で、一人10本単位で購入する客も。

当日は実行委員会によって餅つきが行われ、会場には餅米を蒸す香ばしい香りと、餅をつく威勢のいい掛け声が響きました。

テントではつきたての餅やぜんざいが無料で振る舞

われ、訪れた人達は温かい食べ物にホッと一息ついていました。

実行委員長の直島榮男さん（76歳）によると、「今年は天候に恵まれて何よりです。こうした催しで景気づけをして新年を迎えて貰えばなりよりです」と語りました。



関係機関と連携して事故防止。

毛陣ンネル防災訓練

主要地方道名瀬瀬戸内線毛陣トンネル（大和浜～大柵・1,212m）内にて、12月20日に防災訓練が行われました。

防災訓練は鹿児島県大島支庁が主催し、大和村、奄美警察署、大島地区消防組合消防本部、名瀬消防署、大和消防分駐所、大和村消防団が参加。トンネル通行者の生命を保護するとともに、関係機関の相互連絡や防災活動の連携強化を図ることを目的として実施するものです。

訓練は、トンネル内で乗用車同士が正面衝突し、1人が重傷、1人が軽傷を負い、車両からもれた燃料に引火して車両火災が発生したとの想定。訓練は軽傷者がトンネル内に設置された非常電話で119番通報するところから始まり、情報伝達、出動訓練、交通規制、救助、消火訓練、現場検証と進められました。

発見者・事故車役の消防団員は真剣な面もちで訓練

に参加し、消防や警察関係者は迅速で的確な動きで訓練を行っていました。

訓練に参加した伊集院大和村長は「日頃から事故発生に備え防災に対する意識を高めると共に、道路管理者や消防、警察など連携を強化し事故防止にも努めたい」と語りました。



みんないい子にしてたかな～？

大和保育所クリスマスパーティー

大和保育所（25名）では12月21日、一足早くクリスマスパーティーが行われました。

パーティーは保護者も参加して盛大に開催し、ジュースやイチゴのケーキなどご馳走ををほおぼりました。お食事のあとは子供達が3週間前から練習を重ねてきたというクリスマスソングの合唱や踊りを保護者のみなさんに披露。カメラやビデオを手に子供たちの元気な姿を納めていました。

パーティーの後半は先生がクリスマスの絵本の読み聞かせを。子供達が先生の声に聞き入っていると、遠くから鐘の音が聞こえてきて子供たちの顔は期待の表情に。袋を抱えたサンタクロースが「メリークリスマス！」と登場すると大歓声でサンタさんを迎えました。

子供たちはお髭のサンタさんに興味津々の様で、「サンタさんはどこから来たの？」、「その袋の中には何が入っているの？」などと質問。サンタクロースが「み

んないい子にしてたかな～？」と一人一人にクリスマスプレゼントを手渡すと「ありがとう」と大きな声でお礼を述べていました。

この日に向けて部屋の飾りつけや歌や踊りの練習をしてきた子供たち。24日には『お家の』サンタさんからお目当てのプレゼントが届いたことでしょう。



生き生きと、鮮やかに。

第13回やせいのいきもの絵画展

環境省奄美野生生物保護センター（大和村思勝）にて12月8日（土）、環境省、第13回「やせいのいきもの絵画展」の賞状授与式が行われました。

今年のテーマは「奄美の夜の森・夜の海」として作品を募集し、群島内から21校、350点もの応募がありました。

その中から厳正な審査の結果、生きもの大賞・あざやか賞・ユニーク賞・審査員特別賞の計12点の作品が選ばれ、入賞者には賞状と、副賞として入賞作品が掲載された2013年カレンダー、拡大鏡が奄美自然体験活動推進協議会会長 伊集院幼大和村長より手渡されました。

あざやか賞を受賞した高島洋くん（大和小学校6年）は、今回で本絵画展の歴代最多受賞者となり、奄美野生生物保護センターの田中自然保護官から、「コントラストが美しい。毎年高島くんの作品には目を惹かれます。」とほめられ、うれしそうな笑みを浮かべてい

ました。

やせいのいきもの絵画展は、来年2月3日（日）まで、奄美野生生物保護センターの企画展示室にて応募作品全てが展示されています。子どもたちの豊かな感性で描かれた、夜の奄美の生きものたちの姿をぜひご覧ください。



平成25年3月7日から津波警報が変わります

気象庁では、平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震による津波被害の甚大さに鑑み、津波警報等の改善に向けた検討を行い、平成25年3月7日12時より新しい発表基準や情報文による津波警報等の運用を開始します。

津波警報・注意報等の主な変更内容

- マグニチュード8を超える巨大地震の場合は、その海域における最大級の津波を想定して、大津波警報や津波警報を発表します。このとき、予想される津波の高さを、「巨大」、「高い」という言葉で発表して非常事態であることを伝えます。「巨大」という言葉を見たり聞いたりしたら、東日本大震災クラスの津波が来ると思って、ただちにより高い場所に避難しましょう！

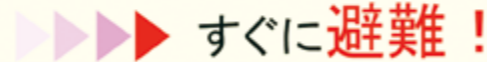
津波警報・注意報の分類

	予想される津波の高さ		
	高さの区分	数値での発表	巨大地震の場合の表現
大津波警報	10m～	10m超	巨大
	5m～10m	10m	
	3m～5m	5m	
津波警報	1m～3m	3m	高い
津波注意報	20cm～1m	1m	(表記しない)

- 大津波警報や津波警報が発表されている時には、観測された津波の高さを見て、これが最大だと誤解しないように、津波の高さを数値で表わさず「観測中」と発表する場合があります。「観測中」と発表されたら、これから高い津波が来ると考えて警戒を続けましょう！

津波から命を守るためには、

- 強い揺れ、弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたら
- 揺れがなくても、津波警報を見聞きしたら



すぐに避難！

津波警報等の変更内容等について、詳しくは気象庁ホームページをご覧ください。

津波警報改善

検索

問合せ先:名瀬測候所技術課 TEL 0997-52-0375

鹿児島県の最低賃金

必ずチェック最低賃金！
使用者も労働者も

地域別最低賃金	時間額	効力発生日	適用範囲
鹿児島県最低賃金	654円	平成24年10月13日	鹿児島県下のすべての労働者に適用されます。ただし、下表記載の産業に該当する場合は、各産業別最低賃金が適用されます。

特定(産業別)最低賃金	時間額	効力発生日	適用範囲
電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、情報通信機械器具製造業(医療用計測器製造業を除く、ただし心電計製造業は含む)	700円	平成24年12月21日	次に掲げる者を除く(ただし、鹿児島県最低賃金は適用されます) ① 18歳未満又は65歳以上の者 ② 雇入れ後6月未満の者であって、技能習得中のもの ③ 次に掲げる業務に主として従事する者 イ 清掃又は片付けの業務 ロ 手作業により又は手工具若しくは小型動力機を用いて行う組線、巻線、かしめ、取付け、バリ取り、かえり取り、錆ばり取り、刻印又は選別の業務(これらの業務のうち流れ作業の中で行う業務を除く。) ハ 手作業による包装、袋詰め、箱詰め、材料の送給又は取りそろえの業務
百貨店、総合スーパー	680円	平成24年12月8日	「百貨店、総合スーパー」とは、衣食住にわたる各種の商品を小売りする事業所で、その事業所の性格上いずれが主たる販売商品であるかが判別できない事業所であって、従業者が常時50人以上のもの。
自動車(新車)小売業	724円	平成24年12月19日	次に掲げる者を除く(ただし、鹿児島県最低賃金は適用されます) ① 18歳未満又は65歳以上の者 ② 雇入れ後6月未満の者であって、技能習得中のもの ③ 清掃又は片付けの業務に主として従事する者

<<最低賃金に関するお問い合わせ先>>

- 鹿児島労働局賃金室 (電話) 099-223-8278
- 川内労働基準監督署 (電話) 0996-22-3225
- 鹿児島労働基準監督署 (電話) 099-214-9175
- 加治木労働基準監督署 (電話) 0995-63-2035
- 鹿屋労働基準監督署 (電話) 0994-43-3385
- 名瀬労働基準監督署 (電話) 0997-52-0574

鹿児島労働局・労働基準監督署

http://www.kagoshima.plb.go.jp

最低賃金テレホンサービスTEL 099-223-8881

鹿児島県指定の地域リハビリ相談窓口が設置されました！

「奄美圏域 地域リハビリテーション広域支援センター」のご案内

奄美のみなさまが住み慣れた地域でいきいきと暮らしていくための支援をおこなっています。



奄美圏域地域リハビリテーション広域支援センター長 秋山 洋一

【地域リハビリテーション広域支援センターの役割】

奄美圏域地域リハビリテーション広域支援センターは、鹿児島県地域リハビリテーション推進事業の一環として奄美圏域における地域保健・医療・福祉の連携を図り、地域リハビリテーションの充実に寄与することを目的として下記の項目に関する活動を推進していきます。

(1) 地域リハビリテーション実施機関への支援

- ・地域住民の相談への対応に係る支援
- ・福祉用具、住宅改修等の相談への対応に係る支援

(2) 地域におけるリハビリテーション実施機関等の従事者に対する援助・研修

- ・地域におけるリハビリテーション実施機関の従事者に対する実地の技術支援
- ・リハビリテーション従事者に対する研修会

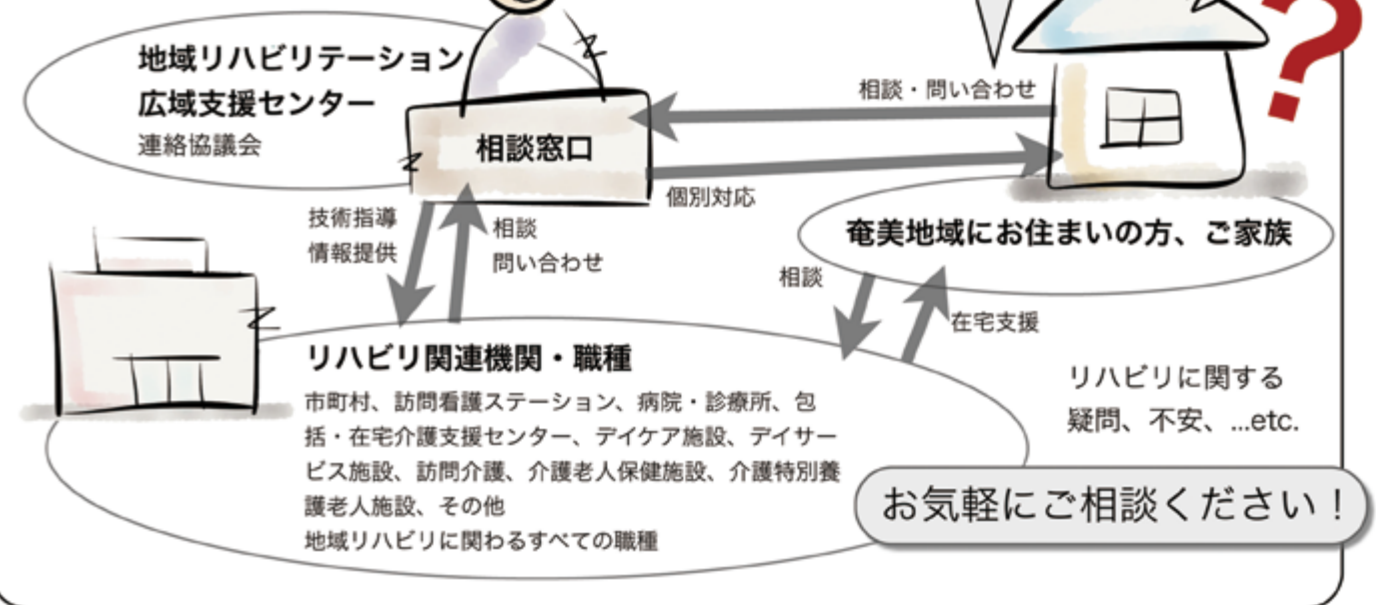
(3) 地域における関係団体、患者の会、家族の会等からなる連絡協議会の設置・運営

地域リハビリテーションに関係する職種の方々で地域リハビリテーションの推進のための検討会を開催します。

たとえば、こんなとき...

- ・退院した後の自宅での生活が不安...
- ・安全な介助方法がわからない?
- ・リハビリに関する社会資源?
- ・自宅でリハビリを継続したい...
- ・どんな福祉用具を選んだらいいのかわからない?
- ・手すりの設置などの環境設定をしたい
- ・地域で使えるサービスがわからない?
- ...その他

【地域連携の流れ】



【連絡先：相談窓口】
 奄美圏域地域リハビリテーション
 広域支援センター (社団法人 大島郡医師会病院)
 0997-54-8111(代) 内線 280
 秋山 洋一

自宅で村議会を傍聴できます

大和村議会の活動については議会だよりはもとより、広報誌、ホームページ、フェイスブックページ等で発信して参りましたが、より詳細な情報の提供を行うため、映像及び音声をライブ配信(生中継及び録画放送)いたします。

配信はユーチューブ動画共有サービスを利用し、12月14日の一般質問から開始しています。インターネット環境を整えば自宅に居ながら村議会を傍聴できます。どうぞご覧ください。

以下のURLからユーチューブ配信ページに行くことができますが、その際は和村公式ホームページの外に行くこととなりますのでご注意ください。



救急医療情報カードを配布

大和村では、救急時や災害避難時等において、村民の安全・安心の確保と地域での支え合い体制の向上を図ることを目的とし、救急医療情報カードを無料で配布いたします。詳しくは各世帯配布ちらしをご覧ください。

対象者 村内に住所を有し配布を希望する方
利用方法 緊急時に必要な医療情報等を記入したファイル冷蔵庫に設置します。例えば救急車を呼ぶ必要がある時などに持病や服薬等の情報が確認できるため迅速な措置をとることが出来ます。

申請方法 希望者は各集落区長から配布申請用紙を受け取り、必要事項を記入のうえ各集落区長へ提出して下さい。

お問い合わせ先 大和村地域包括支援センター 早川・重野 (電話0997-57-2218)



確定申告はお早めに

確定申告の時期が近づいてきました。平成24年分の所得税の税務署が開設する申告会場の受付、相談期間は、平成25年2月18日(月)から平成25年3月15日(金)までとなっています。

所得税は、納税者自身が所得金額や税額を正しく計算して納税する申告納税制度をとっていますので、申告と納税は、期限内にお済ませ下さい。確定申告の提出は、郵送等でもできます。申告期限が間近になりますと、申告会場は大変混雑し、長時間かかる場合もございますので、お早めに申告をお済ませ下さい。

なお、国税庁ホームページ (http://www.nta.go.jp) の、「確定申告書等作成コーナー」で簡単に申告書等の作成ができますので、是非ご利用下さい。

詳しいことは、大島税務署(52-4321)におたずね下さい。



年金記録、もう一度ご確認を

年金記録問題の解決に向けて、これまで「ねんきん定期便」などをお送りし、ご確認をお願いしてまいりました。しかし、いまだ約2,200万件の持ち主が確認できていない記録が残っています。

ご自身の年金記録に「もれ」や「誤り」があるのでとご心配のある方は、キャンペーンのパンフレットのチェックリストなどでご確認いただき、お近くの年金事務所等にご相談下さい。

パンフレットはお近くの年金事務所等または大和村住民税務課で配布しています。

あなたの気になる年金記録、もう一度ご確認を。

受付

月々金(午前9時~午後8時) 第2土曜日(午前9時~午後5時) ※ 祝日(第2土曜日を除く)はご利用いただけません。

お問い合わせ

ねんきん定期便・ねんきんネット専用ダイヤル 電話：0570-058-555

※050または070から始まる電話でおかけになる場合は03-6700-1144 HP: Http://www.nenkin.go.jp

早朝の奄美の森を歩きませんか?

オオトラツグミさえずり一斉調査、参加者募集!

「オオトラツグミ」は奄美大島にのみ生息し、その生息数も少ない希少な鳥です。この鳥の数の変動を知るために、特定非営利活動法人 奄美野鳥の会では、毎年3月に市民参加型の調査をおこなっています。今年で20年目になります。この調査を実施するにあたって、毎年多くのボランティア調査員を募っています。3月は鳥たちの繁殖の季節です。森の中に美しい鳴き声(さえずり)が響きます。みなさんもオオトラツグミのさえずりを聞きに、清々しい早朝の森の中を歩いてみませんか。



早朝の林道を歩きながら、聞こえてきた「さえずり」を地図に記録していきます。事前の説明会で、調査のやり方や鳴き声を覚えていただきます。健康な方であればどなたでも参加できます。詳しくは、奄美野鳥の会にお問い合わせ下さい。

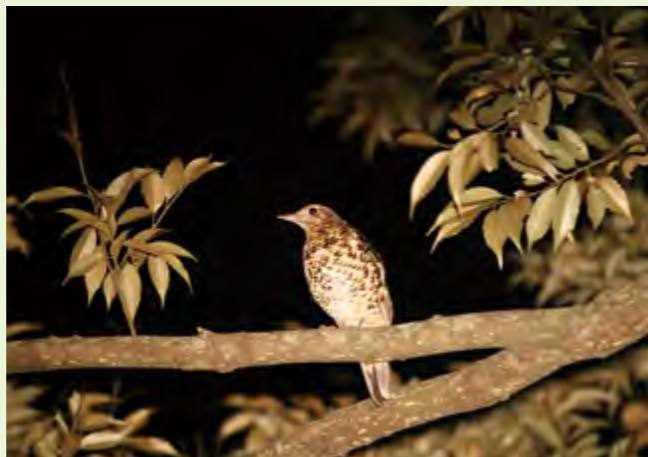
◆日程

- 3月18日(日) 一斉調査(奄美中央林道、他)
- 3月24日(日) 補足調査(大和村地域)

※事前説明会は3/8~10に奄美博物館でおこないます(3日間中どこかにご参加ください)。

◆問い合わせ・申込み先

特定非営利活動法人 奄美野鳥の会 TEL: 0997-57-7593 HP: http://www.synapse.ne.jp/~lidthi/



オオトラツグミ (撮影: 高美喜男)

こせきの窓

人口 1,672人(△32) 男 801人(△17) 女 871人(△15) 世帯 880戸(△17)

1月1日現在 (前年同月比)

カメラの後ろでお母さんが呼ぶと元気に応えていました。



勝 幸盟さん 勝 栄一朗さん(名音) 保護者



お誕生おめでとう

- 上村 彪波さん(上村拓三・名音)
- 民 歩和さん(民 幸和・名音)
- 前田 龍清さん(前田清和・大柵)

お悔やみ申し上げます

- 岡村 健一様(83歳・名音)
- 福永 眞祥様(79歳・今里)
- 宮田 ヨシ様(92歳・今里)
- 川野トミ子様(90歳・大和の蘭)

香典返し(社会福祉協議会へ)

- 吉永 逸子様(故春日シゲ様)
- 宮田 益慶様(故宮田ヨシ様)
- ふるさと納税ありがとうございました

広報誌謝礼ありがとうございました

- 川畑 和昭様(奄美市)
- 河野 達人様(日置市)
- 勝間田義則様(千葉県)
- OA通信サービスFC奄美(奄美市)

野山の



白とピンクの グラデーシオン



ヒカンザクラは中国南部原産のバラ科サクラ属の落葉小高木。淡紅色の花を寒期に咲かせることから『緋寒桜』と名付けられ、奄美では旧暦12月の頃に咲くことからシワスバナ（師走花）と呼ぶ地域もあるそうです。

以外に思うかも知れませんがヒカンザクラは移入種。島内のサクラは全て人の手によって植栽されたものだから。淡赤紅色の花に魅了される人は多いようで群島各地で盛んに植樹されてきました。龍郷町の本茶峠や本村の奄美フォレストポリス水辺の広場など、島内に花見のスポットが増えつつあるのは嬉しい限りです。

大和村でも特に大和浜集落の人たちはヒカンザクラを好んだようで、荒巻地区や長溝地区のスモモ畑には防風林に混じって多くのサクラが植栽されています。2月に入り、サクラの開花が盛りを迎えると、連れてスモモの開花が始まり、赤紅色の花と純白の花の共演を見ることが出来ます。

群れて咲くヒカンザクラも鮮やかですが、天に向かって凛と咲くスモモも清楚で見る者を引きつけて止みません。



今年も冷え込みが厳しかったせいかスモモの開花が例年より1〜2週間ほど早いように感じられます。

久々の晴天に恵まれたので写真に納めようと中原史雄さん（大和浜・63歳）のスモモ園を訪ねると、開花はすでにピークを過ぎた模様。木々によっては若葉が芽吹き始めていました。

カメラを固定しファインダーを覗くとスモモの向こうには遅咲きのヒカンザクラが。露出オーバー気味の明るい日差しの中、スモモの純白とヒカンザクラの赤紅色、それに若葉の緑がアクセントを添え、彩り鮮やかなグラデーシオンを織りなしていました。

毎春訪れる季節のサイクルとはいえ、咲く花を愛でる高揚感と散る花を思う儂さは日々の暮らしの中にある出会いと別れに重ね合わせてしまいます。ただただ、出会った偶然に感謝するのみ。

さて、スモモ農家の皆さんは、開花が過ぎると畑の下刈り、摘果（実の間引き）、枝の補強、収穫へとあわただしい日々が始まります。農家ならずとも収穫まで天候に恵まれ、無事出荷できることを願わずにはいられません。



←バーコード読み取り機能付き携帯電話をご利用の方はここから大和村ホームページ携帯サイトへ簡単にアクセスできます。それ以外の方は直接URLを入力してアクセスしてください。
(<http://www.vill.yamato.lg.jp/i/>)

発行・編集 大和村役場総務企画課
〒894-3192 鹿児島県大島郡大和村大和浜 100 番地
TEL 0997-57-2111 FAX 0997-57-2161
mail:info@vill.yamato.lg.jp
<http://www.vill.yamato.lg.jp>